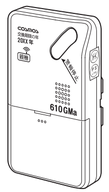
ガス警報器（LPガス用）

検知部分離型
高圧ガス保安協会検定合格品

型式 **XL-610GMa**（警報部：PA-6Ma、検知部：GD-6） 親機

施工説明書 【施工される方へ】

お客さまにこの警報器を安全に正しくご使用いただくために、この施工説明書をよくお読みいただき、指定された取り付けを行ってください。



警報部：PA-6Ma

検知部：GD-6

1 施工される方へのお願いとご注意

お願いとご注意

- 警報器の取り付けは、この施工説明書に従って指定された取り付けを行ってください。
- 取り付け終了後に、必ず動作確認を行ってください。マイコンメータや外部機器と接続される場合は、マイコンメータや外部機器の取扱説明書および設置工事説明書に基づいて動作確認を行ってください。
- 取り付け終了後に、P.17 **「8-1 警報器の説明」**、P.18 **「8-2 お客さまへの周知申項」**について、必ずお客さまに説明してください。
- 本警報器は、マイコンメータ遮断用無線装置（型式：RM-691）を使用して、マイコンメータなどの外部機器と連動して使用ください。
  ※本警報器をガス警報器（LPガス用）として単体で使用することも可能です。ただし、外部機器とは連動しません。
- 本警報器はガス警報器（型式：XL-610GMb）(以下子機）を最大3台まで無線接続することができます。
- 取り付け前に必ずお読みいただき、お客さまや他の人々への危害や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。注意事項は、誤った取り扱いによる危害や損害の程度を、下記の表示で区分しています。

⚠警告	作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が傷害を負う場合または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

⚠警告

- **分解や改造はしないでください。**
  故障の原因となります。
- **警報器を落下させるなど、衝撃を与えないでください。**
  故障の原因となります。

⚠注意

- **警報器に耳を近づけて、警報音を聞かないでください。**
  聴力障害などの原因になります。
- **正しい取付位置に取り付けてください。**
  取り付けてはいけない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤動作、故障の原因になります。

2 施工前の確認

2-1 梱包部品の確認

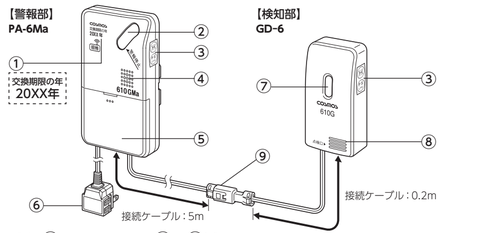
梱包部品の種類と個数を確認してください。

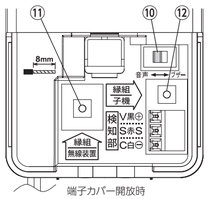
警報部付属品	検知部付属品	その他
取付板…1個 コード振れ止め…3個 アンカープラグ…2個 皿木ねじ…2本 丸木ねじ…3本	取付金具…1個 コード振れ止め…8個 アンカープラグ…2個 丸木ねじ…2本 丸木ねじ…2本	取扱説明書（保証書付）…1部 施工説明書[本書]…1部 警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカー…1枚 点検ガス…1個

2-2 保証書・警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーへの記入

保証書の所定の欄に、販売店さまの名称・住所・連絡先を記入してください。
警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーの所定の欄に、販売店さまの名称と連絡先を記入してください。
警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーは、お客さまの目につく場所に貼ってください。

2-3 各部の名称とはたらき





端子カバー開放時

①**交換期限表示**
警報器の交換期限が表示されています。

②**ランプおよび警報停止スイッチ**
通常は緑色に点灯しています。
ガスを検知すると赤色に点灯します。
故障しているときは、緑色に点滅します。
警報中にスイッチを押すと、警報音を約1分間停止することができます。

③**検定合格証**
高圧ガス保安協会の検定に合格した製品であることを証明しています。

④**警報スピーカー**
検知部がガスを検知すると警報音が鳴ります。

⑤**端子カバー**

⑥**電源プラグ**
消費電力が1490W以下の電気製品を接続できる予備コンセント付きです。コード長さは2.5mです。

⑦**ランプ**
通常は緑色に点灯しています。
ガスを検知すると赤色に点灯します。
故障しているときは、緑色に点滅します。

⑧**ガス検知部および点検口**
ガスを検知します。また点検ガスを注入する部分です。

⑨**防水コネクタ**
警報部と検知部を接続します。

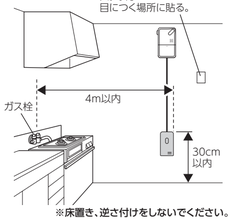
⑩**音声／ブザー切替スイッチ**
警報器の音声を切り替えることができます。
出荷時は、音声設定となっています。

⑪**無線装置用緑組ボタン**
マイコンメータ遮断用無線装置と無線通信を接続する際、ボタンを押します。

⑫**子機用緑組ボタン**
子機と無線通信を接続する際、ボタンを押します。
詳しくは子機（型式：XL-610GMb）の施工説明書を参照ください。

2-4 取付位置の確認

取付位置については、お客さまとよく相談して決めてください。



〈正しい取付位置について〉

【警報部】
- ガスもれ警報があった場合、ランプの確認しやすい位置、点検が容易にできる場所。
- 無線の電波強度を確認して、安定して通信できる場所。

【検知部】
- 床面から30cm以内の高さで、ガス器具や元栓（ガス栓）の最も遠いところより水平距離で4m以内の場所。
- ガスもれを検知しようとするガス機器を設置している場所と同一の室内。
- もれたガスが滞留しやすい位置。

〈取り付けてはいけない場所について〉

以下の場所には、絶対に警報器を取り付けないでください。

【警報部】
- **振動、衝撃の激しいところ。**
  誤動作や故障の原因になります。
- **温度が−10℃以下または40℃以上になるところ。**
  誤動作や故障の原因になります。
- **器物や煮こぼれ、水、油などが落ちるところ。**
  誤動作や故障の原因になります。
- **電子レンジなど電波干渉を起こしやすい障害物の近く。**
  無線通信が妨げられ、通信エラーの原因になります。
- **使用時しか電源を入れないところ（ビルなどの湯沸室で夜間電源を切るところ）。**
  警報器としての機能を果たしません。
- **浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所、結露する場所。**
  感電や電気的故障の原因になります。
- **屋外。**
  屋外では使用できません。

【検知部】
- **振動、衝撃の激しいところ。**
  誤動作や故障の原因になります。
- **温度が−10℃以下または45℃以上になるところ。**
  誤動作や故障の原因になります。
- **カーテンウォールなどで仕切られるところ。**
  警報が遅れる原因になります。
- **給排気口、通路、ドア付近などの風通しのよいところ、すきま風の入るところ。**
  警報が遅れる原因になります。
- **台所設備などでさえぎられるところ。**
  警報が遅れる原因になります。
- **燃焼器具などの排気、湯気、油煙などが直接かかるところ。**
  センサ寿命が短くなったり、誤動作するおそれがあります。
- **屋外。**
  屋外では使用できません。

3 マイコンメータ遮断用無線装置との縁組のしかた

警報器（XL-610GMa）・マイコンメータ遮断用無線装置（RM-691）のセット品（型式：XLR-610n）を使用されるお客さまへ

出荷時に縁組されていますので、下記の手順を行うことは不要です。次項「4取り付けかた」にお進みください。

⚠注意

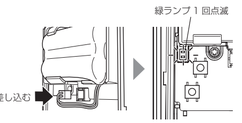
セット品（型式：XLR-610n）を使用される以外で、マイコンメータ遮断用無線装置と無線通信する場合は、マイコンメータ遮断用無線装置との縁組が必要となります。

警報器とマイコンメータ遮断用無線装置を縁組される場合は、下記の1～4の手順を行ってください。
※マイコンメータ遮断用無線装置を警報器の近くに持ってきて、縁組をしてください。

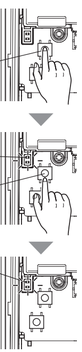
1. マイコンメータ遮断用無線装置を縁組モードにする

① **マイコンメータ遮断用無線装置の端子カバーを取り外す**

② **電池コネクタを差し込む**
緑ランプが1回点滅します。
※電池コネクタをすでに差し込んでいる場合は、この手順は不要です。



③ **マイコンメータ遮断用無線装置の縁組ボタンを押し、緑ランプが点灯したら、縁組ボタンを離す**



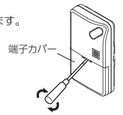
※緑組が可能になり、約 15 分間緑組可能状態で待機します。
※約 10 秒おきに 2 回点滅しない場合、販売店に連絡してください。

2. 警報器を緑組モードにする

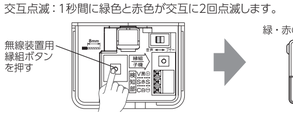
① **電源プラグをコンセントに差し込む**
ランプが緑色に約2秒間点灯後、ゆっくり緑色に点滅※1します。
※1：ゆっくり点滅
　ランプが消灯から点灯、点灯から消灯へ連続的に変化します。

② **約3秒後ランプが緑色に点灯し、「警報器正常です」と鳴り、監視状態に入る**

③ **端子カバーを外す**
端子カバーの溝にマイナスドライバーを差し込んで回してください。



④ **警報器が監視状態にて、警報器の無線装置用緑組ボタンを1秒間押すと、ランプが緑色と赤色の交互点滅※2して、緑組を開始します。**
※2　交互点滅：1秒間に緑色と赤色が交互に2回点滅します。



3. 緑組が完了すると、「メータ側の無線機の登録が完了しました」と鳴り、警報器のランプが緑色に点灯し、監視状態に入ります

次の場合は、緑組ができていません。

- **緑組が完了していない状態で、警報器の無線装置用緑組ボタンを押してから60秒経過した場合**

① 「**メータ側の無線機が登録できません**」と鳴動後、約10秒間ランプが緑色と赤色の交互高速点滅※3します。
※3　交互高速点滅：1秒間に緑色と赤色が交互に4回点滅します。

②ランプが緑色に点灯し、警報器は緑組前の状態に戻ります。
「**1.マイコンメータ遮断用無線装置を緑組モードにする**」の手順③からもう一度やり直してください。

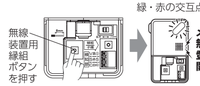
※緑組動作中に緑組を中止する場合は、警報器の警報停止スイッチを約1秒間押してください。
①緑組動作中に警報停止スイッチを約1秒間押しする（「**ピッ**」で警報停止スイッチを離す）と、「**メータ側の無線機が登録できません**」と鳴動後、約10秒間ランプが緑色と赤色の交互高速点滅※4します。
※4　交互高速点滅：1秒間に緑色と赤色が交互に4回点滅します。
②ランプが緑色に点灯し、警報器は緑組前の状態に戻ります。
再度、緑組をされる場合は、「**1.マイコンメータ遮断用無線装置を緑組モードにする**」の手順③からもう一度やり直してください。

4. マイコンメータ遮断用無線装置および警報器の端子カバーを取り付ける

- **マイコンメータ遮断用無線装置の端子カバーを取り付ける**
  ※防雨性確保のため、ねじ（3本）を均等に締め付けてください。
- **警報器の端子カバーを取り付ける**

マイコンメータ遮断用無線装置と緑組を解除する場合は、以下の手順を行ってください

1. 「P.6 **[2.警報器を緑組モードにする]**」の手順①から④の作業を行う。
   ※「**1.マイコンメータ遮断用無線装置を緑組モードにする**」の作業は不要です。



2. 手順④の作業後に、警報停止スイッチを5秒間押すと、「**ピッ**」「**ピーピーピー**」と鳴り、マイコンメータ遮断用無線装置との緑組情報が消去され、ランプが緑色に点灯し、監視状態に入ります。

3.警報器の端子カバーを取り付ける。

4 取り付けかた

4-1 警報器を取り付ける前に

⚠注意

- **検知部の前に物を置いたり、取り付けたりしないでください。**
  警報が遅れる原因になります。
- **取付位置の材質・強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には取り付けないでください**
- **取付板へのねじの締めについては、締めすぎないように注意してください。**
  取付板が割れるおそれがあります。
- **警報器を既存の金属製の取付金具に、絶対に取り付けないでください。**
  無線通信に不具合が発生するおそれがあります。
- **警報器を金属などで囲わないでください。**
  無線通信に不具合が発生するおそれがあります。

おねがい

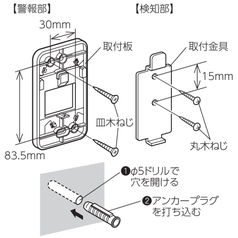
- 取付位置は、P.4 **[2-4 取付位置の確認]** の正しい取付位置を守った上で、電源コードの距離、端子カバーを開けたときの配線のしやすさ、取付板（警報部用）・取付金具（検知部用）に警報器を引っ掛けるための隙間などを確認して決定してください。

〈取付板を使用して、木質壁・コンクリート壁・タイル壁に取り付ける場合〉

【警報部】
取付板を付属の皿木ねじ（長さ25mm、2本）で壁面に固定する。

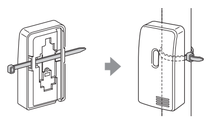
【検知部】
取付金具を付属の丸木ねじ（長さ25mm、2本）で壁面に固定する。

コンクリート壁・タイル壁の場合は、壁面にφ5ドリルで35mm程度の穴を開け、付属のアンカープラグを打ち込み、取付板・取付金具を取り付ける。
※アンカープラグが入りにくい場合は、木づちで打ち込んでください。



〈配管などに取り付ける場合〉

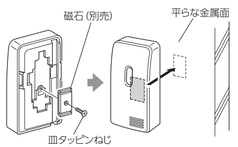
検知部の背面に市販の結束バンドを差し込んで配管に取り付けることができます。



〈磁石を使用して壁面に取り付ける場合〉

検知部の背面に、別売の磁石（OU-83）を使用して、取り付けることができます。
※検知部が落下しないよう、できる限り平らな面にお取り付けください。
　取り付ける面が汚れている場合は、良く拭いてください。

※磁石が外れないよう、ねじはしっかりと奥までねじ込んでください。

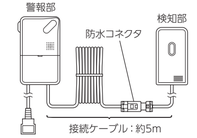


4-2 警報器の取り付け

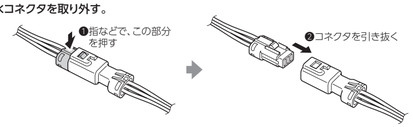
⚠注意

- **警報器を取り付ける際には、電源プラグをコンセントから抜いて作業を行ってください。**
  感電・故障・誤動作の原因となります。
- **電気設備技術基準および内線規程により、電源コードはステップルや釘などで固定しないでください。**
- **電源コードや警報器・検知部の接続線の上に、重いものを置かないでください。**

出荷時、警報部（PA-6Ma）と検知部（GD-6）は接続ケーブルで接続されています。



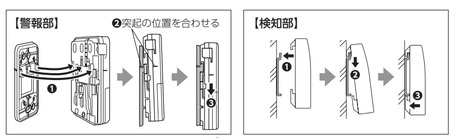
① 防水コネクタを取り外す。



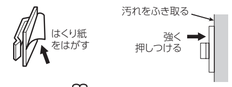
② 警報器を取付板に取り付ける。

⚠注意

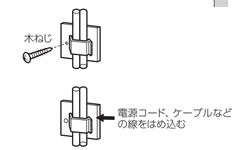
無理な力で、取付板に警報部を取り付けないでください。
取付板が破損するおそれがあります。



③ コード振れ止めを壁面に固定する。



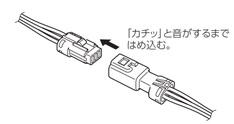
〈接着だけで取り付けできない場合〉
木ねじを使用して固定する。



④ **電源コード、ケーブルなどの線を、コード振れ止めにはめ込む。**

おねがい

余った電源コードや接続ケーブルは、ガス検知の妨げにならないよう、警報器のガス検知部から離して置いてください。



⑤ 防水コネクタを取り付ける。

4-3 接続ケーブルの長さを調整する場合

接続ケーブルは、0.3mm² で200mまで延長できます。

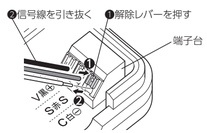
準備するもの： マイナスドライバー、ニッパー、延長ケーブル(線色などで極性が区別できるもの)
閉端圧着スリーブ、ビニルテープ、充填材 (シリコーン系を除く)

※ 使用可能延長ケーブル
線材 (推奨)： HKVF (通信機器用二種ビニルコード)
VCTF (ビニルキャプタイヤ丸形コード)
太　さ　： 0.3 ～ 1.25mm² (AWG22 ～ 15)

※ 延長ケーブルは、耐候性の線材をご使用ください。

① **端子カバーを外す。**
端子カバーの溝にマイナスドライバーを差し込んで回してください。

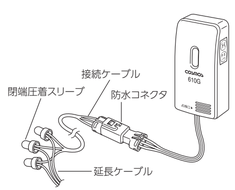
② **端子台の解除レバーを押しながら、接続ケーブルを引き抜く。**



③ **延長ケーブルを、閉端圧着スリーブで接続ケーブルの警報部側端末に接続する。**

おねがい

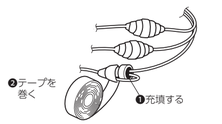
検知部側接続ケーブルは延長しないでください。故障の原因となります。

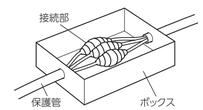


④ 閉端圧着スリーブの接続部を充填材で埋め、接続部分を1本ずつビニルテープで巻いて処理する。

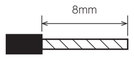
⚠注意

- **ケーブルの接続部は、直接水や油がかかったり、水没のおそれのある場所には置かないでください。ケーブルの施設場所の状況に応じて、接続部をボックスに収めたり、ケーブルを保護管に入れるなどの処置をしてください。(ただし、接続部は保護管内に入れないでください。)**
作動不良になるおそれがあります。
- **処理を行った箇所に負荷がかからないようにしてください。**





⑤ 右図のように、延長したケーブルの先端の被覆を剥き、延長したケーブルを警報部の端子部の表示に従って接続する (P.11手順②参照)。

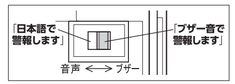


5 取り付け後の点検

5-1 警報音声の設定

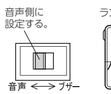
警報器の音声は、音声 (日本語)・音声 (日本語と中国語)・ブザーの3種類があります。
初期設定は音声 (日本語) に設定されていますので、必要に応じて、音声/ブザー切替スイッチと警報停止スイッチで、設定の変更を行ってください。

音声/ブザー切替スイッチを切り替えると、「**日本語で警報します**」「**ブザー音で警報します**」が鳴り、音声の切り替えが完了する。

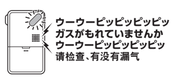


〈警報音を中国語に設定する場合〉

① **音声/ブザー切替スイッチを音声側に設定した状態で、警報停止スイッチを「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」と鳴るまで押し、スイッチを離す。**



② **日本語と中国語の警報音声が交互に鳴り、設定が完了する。**
※中国語に設定した状態で、音声／ブザー切替スイッチを、ブザー、音声の順に切り替えると「**日本語と中国語で警報します**」が鳴ります。



5-2 初期動作の点検

⚠注意

必ずマイコンメータ遮断用無線装置の電源が入っていることを確認してください。

① **マイコンメータ遮断用無線装置の電源が入っていることを確認する。**

② **電源プラグをコンセントに差し込む。**
ランプが緑色に約2秒間点灯後、緑色にゆっくり点滅※5します。
※5： ゆっくり点滅
ランプが消灯から点灯、点灯から消灯へ連続的に変化します。
※交換期限お知らせ機能を解除している場合、ランプ動作は点滅となります。

③ **約3秒後ランプが緑色に点灯し、「警報器正常です　メータ側の無線機の電波が受信できています」と鳴り、その後にマイコンメータ遮断用無線装置との電波の強度に応じて以下の3種類の音が鳴り、監視状態に入る。**
※「**メータ側の無線機の電波が受信できています**」の音声については、「**警報器正常です**」と鳴った後、最大15秒後に鳴ることがあります。

【電波強度】
電波強度 (強)：「**ピーピーピー**」
電波強度 (中)：「**ピーピー**」
電波強度 (弱)：「**ピー**」
※電波強度 (中) (弱) ですと条件によっては通信エラーを起こす場合がありますので、電波強度 (強) で使用してください。
※通信できない場合は、「**ピッピッピッ　メータ側の無線機の電波が受信できません**」が鳴ります。通信状態が良好になるように、警報部またはマイコンメータ遮断用無線装置を移動してください。
※警報器が故障している場合は、ランプが緑色に点滅し続け、P.18に記載している故障時の音声またはブザーが鳴ります。別の警報器とお取り替えください。

おねがい

子機を無線接続している場合は、初期動作の点検後に、必ず「5-3 マイコンメータ遮断用無線装置および子機との通信確認」を行ってください。

5-3 マイコンメータ遮断用無線装置および子機との通信確認

以下の要領で、マイコンメータ遮断用無線装置および子機との通信を確認してください。

① **マイコンメータ遮断用無線装置と子機の電源が入っていることを確認します。**

② **本警報器の警報停止スイッチを約1秒間押すとランプが緑色に点滅し、「ピッ」と鳴ります。**

③ **「警報器正常です　メータ側の無線機の電波が受信できています」と鳴り、その後にマイコンメータ遮断用無線装置の電波強度に応じて、3種類の音が鳴ります。**
※「**メータ側の無線機の電波が受信できています**」の音声については、「**警報器正常です**」と鳴った後、最大15秒後に鳴ることがあります。
【電波強度】
電波強度 (強)：「**ピーピーピー**」
電波強度 (中)：「**ピーピー**」
電波強度 (弱)：「**ピー**」
※電波強度 (中) (弱) ですと条件によっては通信エラーを起こす場合がありますので、電波強度 (強) で使用してください。
※マイコンメータ遮断用無線装置との無線通信を確立できなかった場合、「**ピッピッピッ　メータ側の無線機の電波が受信できません**」と鳴ります。通信状態が良好になるように、警報部またはマイコンメータ遮断用無線装置を移動してください。

④ **子機を接続している場合、「○台#1の子機の電波が受信できています」と鳴り、その後に接続している子機の電波強度に応じて、3種類の音が鳴ります。**
【電波強度】
電波強度 (強)：「**ピーピーピー**」
電波強度 (中)：「**ピーピー**」
電波強度 (弱)：「**ピー**」
※電波強度は、接続している子機の中で最も弱い強度になります。
※電波強度 (中) (弱) ですと条件によっては通信エラーを起こす場合がありますので、電波強度 (強) で使用してください。
※接続している全ての子機との無線通信を確立できなかった場合、「**子機の電波が受信できません**」と鳴ります。
一部の子機との無線通信を確立できなかった場合、「**○台#2の子機の電波が受信できません**」と鳴ります。通信状態が良好になるように、本警報器または子機の警報部を移動してください。
#1：「○」は接続している子機の台数になります。
#2：「○」は無線通信できない子機の台数になります。

5-4 ガス警報機能の点検

⚠注意

付属の点検ガス以外は、絶対に使用しないでください。

① **点検ガスの先端を検知部の点検口にあてる。**

② **点検ガスのレバーを押さえて、点検口に約3秒程度ガスを注入する。**
ランプが赤色に点灯して警報音が鳴ると警報器は正常に作動しています。

※ガスを注入しても、警報を発しない場合は、もう一度同じ作業を行ってください。
それでも警報を発しない場合は、警報器の故障が考えられますので、別の警報器とお取り替えください。

5-5 簡単点検機能でのマイコンメータとの連動確認

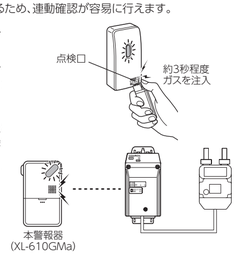
電源プラグをコンセントに差し込んでから約4分30秒間は、簡単点検機能が働いています。
マイコンメータにしゃ断信号を即時で出力するため、連動確認が容易に行えます。

① **マイコンメータ遮断用無線装置の電源が入っていることを確認する。**

② **電源プラグをコンセントに差し込んだ後、警報器が監視状態 (ランプ緑点灯) になったことを確認する。**

③ **「5-4 ガス警報機能の点検」を行って警報が鳴りやんでから、再度「5-4 ガス警報機能の点検」を行う (2回行う)。**
警報音が鳴り、即時でマイコンメータにしゃ断信号を出力します。

④ **マイコンメータがガスをしゃ断します。**



※電源プラグをコンセントに差し込んで約4分30秒以降は、ガス警報が鳴ってから約25 ～ 40秒後に、警報器がしゃ断信号を出力します (通常動作)。

6 交換期限お知らせ機能を解除する場合

出荷時、交換期限お知らせ機能が働いています (警報器またはマイコンメータ遮断用無線装置の交換期限が過ぎたことを、ランプの緑色の点滅でお知らせする機能です)。
交換期限お知らせ機能を解除する場合は、**警報停止スイッチを押しながら**電源プラグをコンセントに差し込んでください。
ランプが緑色に速く点滅し、約3秒後に点灯に変わり、警報器は監視状態に入ります。
※交換期限お知らせ機能を再度設定する場合は、同じ手順を繰り返してください。交換期限お知らせ機能の変更 (設定・解除) は何度でも可能です。

7 廃棄について

本警報器の廃棄の際は、お住いの市町村の廃棄物の処理方法にしたがって廃棄してください。

8 お客さまへの説明について

8-1 警報器の説明

①警報動作および点検結果の説明。
②取扱説明書を必ず読んでいただくことのお願い。
③取扱説明書 (保証書付) の保管のお願い。
④取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。
1. ガス警報の内容(ランプ赤点灯、警報音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
2. 部屋の外にいて、ガス警報に気づいたときにとるべき処置の説明。
3. マイコンメータ連動・外部機器連動機能の説明。
4. 誤報が発生する原因と処置の説明。
5. 異常発生時 (故障、電池切れ) の内容 (ランプが緑点滅と音声合成音の確認) と処置の説明。
6. 警報音確認機能の説明。
7. 鳴動原因表示機能の説明。
8. 警報停止スイッチの説明
- 機器故障音声機能
- 電池切れ音声機能
- 交換期限お知らせ機能
- 通信エラー音声機能

8-2 お客さまへの周知事項

①警報器の交換期限のお知らせ (本体に表示)。
②保証書を必ず読んで内容を理解した上で取り扱うこと。
③警告表示「警報器が鳴ったら」ステッカーに記載の緊急連絡先のお知らせ。
④警報器の移設禁止 (移設依頼時の連絡先)。
⑤警報器の分解禁止。
⑥引越時の処置。
⑦故障・異常時の連絡先。

【参考】警報器が発する音声一覧

項目		ブザー	音声
監視時		–	–
初期動作終了時		「**警報器正常です　メータ側の無線機の電波が受信できています**」	
ガス警報時		「**ウーウー ピッピッピッピッ**」	(日本語) 「**ウーウーピッピッピッピッ ガスがもれていませんか**」 (日本語と中国語) 「**ウーウーピッピッピッピッ ガスがもれていませんか ウーウーピッピッピッピッ 请检查、有没有漏气**」
マイコンメータとの連動音声	しゃ断予告	「**ピッ**」	「**ピッ　ガスを長く使っていませんか**」
	しゃ断	「**ピッピッ**」	「**ピッピッ　ガスをメータで止めました**」
	復帰安全確認中	「**ピッピッピッ**」	「**ピッピッピッ　安全を確認中です しばらくお待ちください**」
	ガス使用許可	「**ピー**」	「**ピー　ガスが使えます**」
警報部が故障時		「**ピッピッピッ**」	「**ピッピッピッ　警報部故障です**」
検知部が故障時		「**ピッピッピッ**」	「**ピッピッピッ　検知部故障です**」
警報部⇔検知部の誤配線 (VSCの誤配線、断線)		「**ピッピッピッ**」 ※誤配線検知後、3分後に鳴動	「**ピッピッピッ 検知部との配線を確認してください**」
マイコンメータ遮断用無線装置⇔マイコンメータの誤配線		「**ピッピッピッ**」 ※誤配線検知後、24時間後に鳴動	「**ピッピッピッ メータと無線機の配線を確認してください**」
マイコンメータ遮断用無線装置との無線通信がエラー時		「**ピッピッピッ**」	「**ピッピッピッ メータ側の無線機の電波が受信できません**」
子機との無線通信がエラー時		「**ピッピッピッ**」	「**ピッピッピッ 子機の電波が受信できません**」
マイコンメータ遮断用無線装置の電池が切れた時		「**ピッピッピッ**」	「**ピッピッピッ メータ側の無線機が電池切れです**」
警報器の交換期限お知らせ (交換期限を過ぎて、警報停止スイッチを押した場合)		「**警報器の交換期限が過ぎています 販売店に連絡してください**」	
マイコンメータ遮断用無線装置の交換期限お知らせ (交換期限を過ぎて、警報停止スイッチを押した場合)		「**メータ側の無線機の交換期限が過ぎています 販売店に連絡してください**」	

※ 中国語の音声は、ガス警報時のみ鳴動します。それ以外は、日本語による音声です。
※ マイコンメータとの連動音声が鳴っているときにガスを検知すると、ガス警報時の音声が鳴動します。
※ ブザー設定時、警報停止スイッチを押すと音声が鳴ります。

memo

新コスモス電機株式会社
本　社　〒532-0036　大阪市淀川区三津屋中2−5−4　(06) 6308−3155 (代)
[北海道] 札幌 (011) 231−1101 (代)
[東　北] 仙台 (022) 295−6061 (代)
[北　陸] 金沢 (076) 234−5611 (代)
[関　東] 東京 (03) 5403−2706 (代)
新潟 (025) 365−1390 (代)
[中　部] 名古屋 (052) 951−2650 (代)
静岡 (054) 255−1901 (代)
[関　西] 大阪 (06) 6308−3155 (代)
[四国・中国] 岡山 (086) 435−5087 (代)
広島 (082) 568−2800 (代)
[九　州] 福岡 (092) 431−1881 (代)